

富士を“世界の宝”

遺産登録へ官民一丸

昨年四月、中曽根康弘元首相と山梨の両県知事を特別顧問にしたNPO法人「富士山を世界遺産にする国民会議」(略称「富士山会議」)が発足したのを機に、両県も推進体制を整備。日本の象徴である富士山を世界共有の財産にするため、官民一体となった今回の国民運動が実現のスタートした。富士山会議は昨年の発足以後、七月に第一回シンポジウム「富士山が世界に誇る文化的価値」を開催したほか、南アフリカ共和国のヨハネスブルグで開催された世界遺産委員会の会議でPR活動を展開。十二月には協議会を作った。十月



「全国富士山ネットワーク会議」で富士山の世界遺産登録実現へ協力を誓い合う(左から)石川嘉延知事、中曽根康弘会長、山本栄彦山梨県知事＝2005年12月10日、都内

登録までのスケジュール

- 推進組織体制の確立
- 暫定リスト立案の作成
- 暫定リスト立案を国に提出
- 国が暫定リスト登録を決定
- 暫定リストをユネスコに提出
- 推薦書「素案、保存管理計画」の作成
- 推薦書立案、保存管理計画を国に提出
- 国が推薦を決定
- 国が推薦書をユネスコに提出
- ユネスコが登録審査(現地調査の実施)
- 世界遺産登録

本県、山梨 NPO 文化的価値アピール

は両県が連携して推進するための母体となる「富士山世界文化遺産登録推進両県合同会議」を設置した。両県と、静岡側の富士宮、富士市、御殿場、裾野、小山の五市町、山梨側の富士吉田市や忍野村など五市町村で構成し、登録を効果的に推進するための総合調整や、登録に向けた施策や事業の推進を図る。

登録までの手続きは、国内候補地の一覧表(暫定リスト)を作成してユネスコ世界遺産センターに提出することから始まる。その後、国が将来にわたり保全するための方策を示す推薦書をユネスコに申請する。文化遺産については、同センターが国際記念物遺跡会議(ICOMOS)へ調査を依頼。毎年一回開かれる世界遺産評議会にて登録の可否を最終決定する。

富士山の世界遺産登録に向けた動きは、約十年前に静岡・山梨両県の文化・自然保護団体などが中心となり、自然遺産登録を自指して署名運動などを展開した。環境の悪化などから、推薦が見送られた。その後、環境汚染問題は地元自治体やNPOなどの取り組みで解決されつつある上、ユネスコの世界遺産委員会で文化遺産の基準が見直され、「文化的価値」という新しい道が開かれたため、富士山の世界遺産登録の動きが活発化している。

パワー与えてくれる山

中国・蘇州生まれ。初来「3ヶ月覚えていきます」

「富士山を見た人はその気高さや清らかさに誰でも打たれる。それが日本の象徴たるゆえんで、私も富士山を見たのがきっかけとしてきた気がする。富士山のように二つの山で端正に整っている山は世界中にない。晴外園を訪れるたびに、日本人が富士山を愛するために意識している。一年の始めに、気持ちを新たにすることを怠らない。富士山を見ることは欠かせない」

「1000年のパリ・オートクチュールコレクション(パリ・ヒュー)にジャン・ペリエ」

ブライダルファッションデザイナー 桂由美さん



気高さ、清らかさ感じる

「周囲を暗くすると蛍光色の光を放つ着る着る襪を履いて、明かりを消すと山並みの中に富士山が青く光る作品を出し、拍手喝さいだった。パリと言えはエッフェル塔のように、日本ならば富士山と考えるのが当たり前のと思う。富士山が一番欧米人に受け入れやすい日本文化ではないだろうか」

新幹線に乗る時も常に窓から富士山を眺め

「灯台も暗しというが、富士山の重要性を静岡の人や日本人全体がどう感じているのかわからない。日本でも富士山を見たことがない沖縄や北海道に住んでいる人が見た時の感動や刺激は大きい。プロポーズをする場所としても富士山と駿河湾がある静岡は最高のポイント。私もNPO法人の「忍人の聖地」づくりの活動などを通じて、その良さを伝えていきたい」